「ココミさん、悪いんだけど俺のスマホどこにあるか分かる？」
「は？スマホですか？ちょっと待っていてくださいね」
ココミはそういうとお祈りのポーズをしてから軽く右手を左回りに何回かまわした。
「どうですか？思い出しましたか？」
「・・・あ！？ジャケットの中だった！ありがとう！助かったよ」
同僚の岡田が去るとココミは再び自分の仕事に戻った。
そして時間はあっという間にランチタイムになった。
ココミは仕事のきりがよいところで終わらせると、うーん！と軽く体を伸ばしふう。っと体の力を抜いた。
手作りの弁当を持って食堂に行くと、すでに何人かの人が座っていて各々食事を取っていた。
ありふれているほどにありふれている光景だったが、その日ココミはわざと目立たない場所で昼食を取ることにした。
（ヴェッサーゴ、さっきはありがとう）
『ああ』
ココミが話しかけたのは、自身の守護霊でもあるソロモン７２柱の悪魔の一柱、ヴェッサーゴだった。

『しかしまあ、あの岡田という男は毎回毎回よくも失せ物をするな。物の管理がなっていない証拠だ。ってお前は言ってやらないのか？』
（そんなことしたら後々の社内環境に響くでしょ？あの人ぱっと見は大ざっぱそうでも悪口言われると凄いんだから）
『どう凄いんだ？私は見たことがないぞ？』
（私が入社したばかりの頃、古株の社員に悪口言われて凄い怒っていたのを見たことがある。それから一週間その古株とは話しなかったんだから）
『一週間話をしない位じゃどうってことないだろう？』
（それがねー、私たちの仕事は岡田さんのいる営業職のサポートだから営業さんと話ができないと仕事が無くなっちゃうの）
『だから失せ物探しが重要だと？』
（そ。あの人は失せ物さえ見つかればご機嫌だから協力して）
『全く、我が愛しの恋人の頼みだから承諾してやっているんだぞ？』
（・・・ヴェッサーゴ、その愛しの恋人とか言う表現恥ずかしいから止めて。っていつもお願いしているでしょ？）
『何故だ？事実お前は私が愛しいと思ったから共に暮らす人間として選んだんだぞ？事実を話して何が悪い』
ココミは食べ物を噛んでいるふりをしながら深くため息をつくと、３年ほど一緒に生活を続けているヴェッサーゴの感覚にめまいが起きそうになっていた。

せめてもの救いはヴェッサーゴが二人っきりでない時は姿を現さないということと、姿を現さない間は脳内での会話になるということだろうか。
（とにかく、岡田さんの失せ物探しに付き合ってくれてありがとう。これからもよろしく）
（分かっている）

＊＊＊＊＊＊

その日の仕事帰り。
ココミが気配を感じて振り返ると、人混みに紛れて姿を現したヴェッサーゴがいた。
髪は黒でよくあるツーブロック。
茶色のシャツに黒のスエットを組み合わせ、濃い茶色のジャケットを羽織るというオフィスカジュアルのお手本のような服装だった。
「仕事お疲れ」
「ありがとう」
いつもの挨拶をした後、ココミはふとあることが気になった。
「ねえヴェッサーゴ。どうして私と一緒に暮らそうと思ったの？」
「それか？それはより日本という国を知るためだ」

「日本を知るため？」
「ああ。お前たちの言葉で言えばホームスティに近い」
「ホームスティってことは・・・実際に暮らして文化を体験する。ってこと？」
「そうだ。私は確かにこの日本に観光できているが、観光できているだけでは分からないことも多い。だから実際に霊能力がある人間と暮らして骨の髄までその国の文化を体験するんだ」
「なるほどね。よく分かった」
「ところで今日はまっすぐ家に帰るのか？」
「うん。明日は買い出しに行く予定だから荷物持ち手伝って」
「分かっている」
そんな話をしながら二人は駅の改札口を抜けたが、
ヴェッサーゴは魔法を使って改札口を開けていたのでその手には何もなかった。
「あれ？ココミちゃん？」
名前を呼ばれて後ろを振り返ると、同じ職場の先輩であるコハルがいた。
「隣にいるの誰？みない顔だけど、彼氏？」
「い、いいえ！この人は同じビルの八階にいる人です。たまたま知り合って友達になったんです！」
「へーそうなんだ。にしてもさあ、この人凄くかっこよくない？」
コハルに言われ、改めてココミはヴェッサーゴを見た。

言われてみれば確かにヴェッサーゴは背は中くらいだったが顔は整っており美形と言ってもいい分類だった。
「・・・確かに・・・」
「ねえココミちゃん、今度この人合コンに連れてこれない？」
「は？合コンですか？」
「そう。今度違う会社の人と合コンすることになったんだけど、この人くれば絶対女の子たち喜ぶと思うんだー」
ココミは改めてヴェッサーゴを見た。
確かにこの美形が合コンに参加をすれば女子たちは大喜び間違いなしだろう。
「ココミ、合コンとはなんだ？」
ココミが合コンについて説明していると、ヴェッサーゴはにこりと微笑んだ。
「合コンに行くのはかまわないが？」